

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

外部評価対象所属の概要

管内市町村 管内JA	高知市 高知市農業協同組合 高知春野農業協同組合								
産地の特徴 主な園芸品目	<p>管内は中山間地域、里山地域、平坦地域（平坦部水田地域、沿岸部砂畑地域、仁淀川水系平坦地域）、市街化地域に分類され、以下の作物が主に栽培されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域：施設シシトウ、施設ミョウガ、四方竹、ユズ等 ・里山地域：ナシ等の果樹 ・平坦地域：ショウガ等の露地野菜や水稲、またキュウリ、メロン、ハウスシヨウガ、トマト、イチゴ、グロリオサなどの施設野菜・花き ・市街化地域：施設による軟弱野菜など <p>さらに全域で街路市や直販所向け野菜など、地の利を生かした多様な農業が展開されています。</p> <p>近年は、環境制御技術や天敵の利用によるIPM技術の普及推進、また集落営農の拡大及び新規就農者の確保育成並びに労力補完システムの構築などに取り組んでいます。</p>								
人員配置 平成27年度 17名 平成28年度 17名 平成29年度 16名	<p>平成30年度職員総数 16名（うち実務経験が3年未満の職員2名）</p> <table border="1" data-bbox="475 1205 1337 1547"> <tr> <td>農業改良普及所長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員3名+専門員1名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第一担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：JA高知市地区)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第二担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：JA高知春野地区及び一部JA高知市地区)</td> </tr> </table>	農業改良普及所長	1名	地域営農担当	チーフ1名 普及指導員3名+専門員1名 (担当エリア：全域)	産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：JA高知市地区)	産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：JA高知春野地区及び一部JA高知市地区)
農業改良普及所長	1名								
地域営農担当	チーフ1名 普及指導員3名+専門員1名 (担当エリア：全域)								
産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：JA高知市地区)								
産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：JA高知春野地区及び一部JA高知市地区)								
普及活動の 進捗よく管理	<ul style="list-style-type: none"> ・重点プロジェクト課題、総合課題、個別課題及び地域アクションプランに関係する課題は、所内チーム会または関係機関と連携したチーム会を定期的で開催し、進捗状況や今後の進め方について協議しPDCAを回しながら進めています。 ・第2四半期終了後中間検討会を開催し、専門技術員から助言を受け、下半期の活動内容について検討を行っています。 ・環境農業推進課への四半期実績報告や、普及課題の多くが、地域アクションプランとリンクしており、地域本部への四半期実績報告などで随時進捗管理をおこなっています。 								

職員の資質向上
の取組状況

- 職場研修（講師は所内職員）（平成 29 年度）
 - ・効率的な経営指導方法：簿記記帳結果を活用し、産地分析・個別経営改善に振り向ける方法を講習
 - ・環境制御技術、土壌について：収量増加のメカニズムについて、土づくりについて
 - ・人を動かす普及方法：直販所の販売額アップに向けて
 - ・海外の花きの現状：フローラホランドトレードフェア及び海外花き市場について

●新任者を対象にしたOJT（平成 29 年度）
 （新任者：1 年目職員、野菜・花き部門副担当）
 課題：トマトにおける環境制御技術を用いた増収効果の検討（JA 高知春野）
 個別育成チーム：3 名（専門技術員含む）
 育成目標：①地域の現状把握と情報の整理、習得した知識の応用
 ②現場の意見を踏まえた病害防除、管理方法の提案
 先輩普及員等に同行し、コミュニケーション能力、関係機関との連携、現状把握と課題解決能力、プレゼン手法、調査データの整理・分析、専門技術などを習得しています。

●国段階研修（平成 29 年度）

研修名	人数
新規普及職員研修（1 年目限定）	1 名
有機農業普及支援研修	1 名
新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1 名

（参考）平成 28 年度の参加人数 3 名

●県段階研修（平成 29 年度）

研修名	人数
ICT、IOT 技術を利用した、環境制御技術関連データの活用方法の検討	2 名
普及指導員派遣研修（花き、マーケティングコース）	1 名

（参考）平成 28 年度の参加人数 8 名（自主企画 6 名、派遣 2 名）

上記の他に、県内普及指導員専門技術高度化研修（経営・担い手：法人化、カイゼン、産地の現状分析；野菜：環境制御技術関係、病害虫）に延べ 10 名参加（H 28 年度 10 名）

タブレット等
ICT 技術の活
用状況について

- ・環境制御機器の表示画面を開いて見方や使用方法を紹介
- ・農林水産省消費安全技術センターホームページでの登録農業等の確認
- ・施肥設計を現地で実施
- ・プレゼンテーション等へ活用

高知農業改良普及所

平成29年度 普及指導活動実績の概要一覧

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重1 環境制御技術導入による施設園芸産地の強化	6	炭酸ガス発生機導入率(面積率) 技術導入農家の10a当たり平均収量	キュウリ36% トマト50% キュウ27.5t トマト23.1t シウガ6.7t	キュウリ15% トマト28% キュウ30.2t トマト11.7t シウガ3.7t	△ △ ○ △ △	より身近な人の炭酸ガス施用成績に関する情報提供が、意識啓発には効果的と思われる。 実証ほ(キュウリ、トマト、シウガ、ユリ)の情報を、勉強会等で情報提供することにより、生産者への関心を高めることができてい	
総1 キュウリの産地維持と生産量の増加	5	(全体)出荷量 新規就農者数 炭酸ガス施用農家	10,094t 延べ8名 68戸	9,850t 延べ8名 28戸	△ ○ △	黄化そ病の多発により、出荷目標は達成できなかったが、防除技術の実証ほ拡大の動きが出てきた。 環境制御技術は、農家主体で毎月1回の定例的な現地検討会が開催され始めたことで、周りへの関心が高まった。	
総2 安定供給できるユズ産地の維持・拡大	4	優良系統苗木の新植・改植 産地提案書の作成 省力化技術の確立	2.5ha 検討 確立	3.3ha 完成 未確立	○ ○ △	関係機関による「ユズチーム会」を毎月開催することで、普及計画にのっとった活動ができた。	
総3 地域特性に応じた集落営農組織の育成	7	新たな集落営農組織数 集落営農塾(ステップアップ講座)の参加組織数	10 9	10 5	○ △	平坦地の水稲受託グループに対し、機械購入を動機付けとして、地域の同意を得て集落営農組織とすることができた。 一方、中山間地の動きは鈍いものの、1組織が塾に参加し法人化を目指すようになった。	
個1 露地シウウガの生産安定	1	マニュアルに沿った土壌病害対策農家数	39戸	38戸	○	アブラナ科作物の輪作後に栽培すると、根茎腐敗病菌が減少し、病害発生が軽減につながることが示唆された。また、防除対策マニュアルの実践で、ほ場での病害の広がりを抑制できた。	
個2 トマトにおける環境制御を用いた増収効果の検討	2	炭酸ガス施用面積 部会全体収量	315a 23.1t/10a	276a 20.4t/10a	△ △	炭酸ガス施用では畝上の局所施用を実施したが、効果が表れなかった。次年度は施用方法を改善する。	
個3 イチゴの生産安定	2	年内収量前年比 環境モニタリング活用農家数	110% 3戸	116% 2戸	○ △	炭そ病発症株の早期発見・除去について、勉強会や個別巡回で意識を高めたことと、適正肥培管理の指導により年内収量が前年より増加した。	
個4 ナシ産地の振興と生産安定	2	高温対策技術導入農家数(遮光・かん水)若手の組織結成	27戸 結成	27戸 結成	○ ○	高温障害果の発生原因と対策を周知することにより、高温対策技術の導入率が100%となった。また、若手生産者4名で「若手の会」を結成し活動を開始した。	

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
個5 グロリオサの新たな技術導入による販売拡大	1	防虫ネット導入農家の秀品率 輸出本数	57% 8万本	66.4% 7.5万本	○ △	実証ほを設置し、成果のあがったデータだけでなく、失敗事例も有益な普及材料として活用した。輸出に関しては、鮮度保持剤の選定試験など技術的側面を支援した。	
個6 時代のニーズに対応できる米産地の振興	3	高育76号の1等米比率(%)	コンヒカリ以上	76%(コンヒカリ26%)	○ ○	高知県育成品種「高育76号」の高品質な特性を把握・周知でき、生産者の反応も良好であった。	
個7 消費者ニーズへの対応による直販所の経営発展	4	販売額	1.66億円	1.55億円	△	販売額アップに向けて、需給ギャップの是正など様々な提案を行っているが、生産力強化に向けた組合員の募集告知など、理事会で承認を得ることが難しく、実践に移せていない部分もある。	
個8 6次産業化商品の県域流通の拡大	2	販売額	285千円	378千円	○	活動初期にチーム会で検討し、状況に応じて目玉商品を変更したことで、集中的に販売促進に努めることができた。	
個9 「牧野野菜」を中心とした伝統作物の復活	2	販売額	800千円	801千円	○	新規栽培者として集落営農組織を紹介した。さらに、積極的にPR活動に取り組んだことで、計画通りの販売額に繋がった。	
個10 「産地提案型」による担い手の確保・育成	4	産地提案書(確保育成計画書)延べ数	4	4	○	土佐山柚子生産組合について、関係機関による「ユズチーム会」で計画的に進めることができ、提案書の作成に繋がった。	
個11 新規就農者の経営安定	5	サポート体制	体制整備	体制整備 サポートチーム 設置	○	高知市担い手協議会の下に「担い手ワーキンググループ」を結成させ、制度の変わった農業次世代人材投資事業の対応を、円滑に進めることができた。	
個12 はちきん農業大 学での女性農業 者の育成	3	のべ受講人数	50人	137人	○	事前に農村女性リーダーに聞き取り調査をし、要望のあった物を組み込むなどした。また各講座の告知をチラシの郵送以外に、JAの広報誌掲載やメール配信、こうち農業ネットへの投稿など広く告知し、大幅に目標を達成した。	
一般 6次産業化への支援	2	直販所らぶ販売額 なるクラブ販売額	75,304 千円 25,568 千円	85,365 千円 32,088 千円	○ ○	店舗の課題や改善について検討することで、販売額を伸ばすことができた。 なるクラブチーム会において、販売実績を細かく分析しながら製造計画を立てることで、販売額を伸ばすことができた。	

高知農業改良普及所

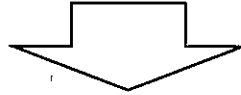
平成30年度 普及指導活動計画の概要一覽

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重1 環境制御技術導入による施設園芸産地の強化	5	導入面積率 ハウス見える化(戸)	キュウリ15% トマト28% 41戸	キュウリ36% トマト50% 83戸	現地検討会(キュウリ:8回、トマト:6回、新ジョウガ:2回、ユリ:3回) 環境制御勉強会(2回)、関係機関とのチーム会(4回)、営農連絡会)	
総1 キュウリの産地維持と生産量の増加	5	新規就農者数 黄化えそ病対策 抜き取り処理 天敵利用農家数	延べ8名 3末58% 54戸	延べ11名 70% 95戸	・PT会等9回、就農相談会2回、経営安定への支援(巡回7回、経営分析1回、カウンセリング2回) ・実証ほ調査(14回)、情報提供等(5回)、勉強会(3回)、現地検討会(3回)	
総2 安定供給できるユズ産地の維持・拡大	4	生産量(t) 指導農業士等研修生の受け皿数	732 2人	1050 3人	ユズチーム会(12回)、技術情報誌配布(12回)、せんだ講習会(2回)、現地検討会(1回)	
個1 露地ショウガの生産安定	2	低濃度エタール土壌還元消毒の効果の確認	—	事例集作成	チーム会(12回)、実証ほの設置(2ヶ所)、菌密度調査(数回)、研修会(1回)	
個2 トマトにおける環境制御を用いた増収効果の検討	2	実証ほの収量 炭酸ガス施用面積	20.5t/10a 346a	23.1t/10a 400a	現地検討会(3回)、環境制御勉強会(2回)、炭酸ガス施用農家の個別巡回調査(10回)、関係機関とのチーム会(4回)	
個3 イチゴの生産安定	2	年内収量前年比 新技術導入農家数	100% 3戸	110% 4戸	チーム会(12回)、技術情報誌配布(12回)、現地検討会(3回)、実証ほ設置・調査(新技術、1カ所)	
個4 ナン産地の振興と生産安定	2	新果実袋の導入 若手の会参加人数	0戸 延べ16人	10戸 延べ24人	チーム会(4回)、技術情報誌配布(4回)、実証ほ設置・調査(高温障害対策、1カ所)、現地検討会(1回)、若手勉強会(4回)	
個5 「牧野菜」を中心とした伝統作物の復活	2	販売額(千円) 販売品目数	801 5	1,000 6	総会・幹事会等(3回)、販促活動(12~1月)、種子確保・作付け計画検討(4月)、採取ほの設置(2カ所)	
個6 時代のニーズに対応できる米産地の振興	3	よさ恋美人栽培面積 多収品種の現地適応性の検討	3.8ha 不明	10ha 確認	実証ほの設置(2カ所)、現地検討会(4回)、経営試算(多収品種)・規模拡大モデルの作成	
個7 消費者ニーズへの対応による直販所の経営発展	4	販売額	1.55億円	1.68億円	チーム会 6回、野菜・果樹類の現地巡回、試験ほ場の設置3ヶ所、新POSデータの分析	
個8 地域特性に応じた集落営農組織の育成	4	準備会設立組織数 法人数	0 0	2 1	集落営農塾(組織化講座 4回、法人経営講座 4回)、集落座談会 3回、役員会等 12回	
個9 グロリオサ栽培農家における経営改善	3	カウンセリングによる経営改善戸数	—	9/14戸	個別カウンセリング・事後評価 14戸、勉強会 3回、現地検討会 1回	
個10 新規就農者の経営安定	5	目標達成農家戸数	5/10	9/9	サポートチーム会 7回、訪問 2回、交流会 1回、研修会 1回	
個11 はちきん農業大学での女性農業者の育成	2	のべ受講人数	104人	104人	本校 5回、支部校 7回	

外部評価対象課題の実績（29年度）及び計画（30年度）の概要

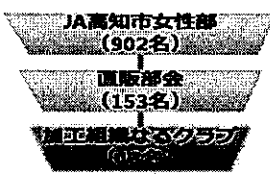
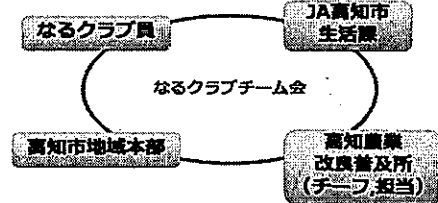
所属名	中央西農業振興センター 高知農業改良普及所														
課題名	加工活動を中心とした直販所の経営発展														
取組期間	平成24～31年度	産業振興計画課題分類	高知市地域AP-12												
対象	JA高知市女性部直販部会 加工組織「なるクラブ」 JA高知市女性部直販部会 直販所「 ^{まっこと} 真心ふあーむらぶ」														
ねらい	JA高知市女性部の加工組織「なるクラブ」の販売額をアップさせる取り組みを支援することで、全量納品している直販所「 ^{まっこと} 真心ふあーむらぶ」の販売額もアップさせる。そして、直販所全体の発展により、女性農業者の所得向上を目指す。														
平成29年度の主な実績	<p>○加工組織「なるクラブ」販売額が、前年対比107%となった。</p> <p>○直販所「^{まっこと}真心ふあーむらぶ」販売額が、前年対比104%となった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状 (H28)</th> <th>目標 (H29)</th> <th>実績 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工組織「なるクラブ」販売額</td> <td>2,985万円</td> <td>2,556万円 (H31目標 2,600万円)</td> <td>3,208万円</td> </tr> <tr> <td>直販所「^{まっこと}真心ふあーむらぶ」販売額</td> <td>8,220万円</td> <td>7,530万円 (H31目標 7,600万円)</td> <td>8,536万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H29の目標額をH28時点で超えているが、目標額は据え置いた。</p>			項目	現状 (H28)	目標 (H29)	実績 (H29)	加工組織「なるクラブ」販売額	2,985万円	2,556万円 (H31目標 2,600万円)	3,208万円	直販所「 ^{まっこと} 真心ふあーむらぶ」販売額	8,220万円	7,530万円 (H31目標 7,600万円)	8,536万円
項目	現状 (H28)	目標 (H29)	実績 (H29)												
加工組織「なるクラブ」販売額	2,985万円	2,556万円 (H31目標 2,600万円)	3,208万円												
直販所「 ^{まっこと} 真心ふあーむらぶ」販売額	8,220万円	7,530万円 (H31目標 7,600万円)	8,536万円												
平成29年度の主要な活動内容と実施時期	<p><対象：加工組織「なるクラブ」></p> <ul style="list-style-type: none"> ○チーム会の開催（隔月、6回） <ul style="list-style-type: none"> ・販売実績と目標の確認（毎回） ・取り組み内容の進捗管理と評価（毎回） ・製造計画を立てる（毎回） ・新商品の試食評価会を開催（5月） ・1年間の取り組みのまとめと評価および次年度活動計画の協議（3月） ○高知県産業振興アドバイザー制度を活用し、料理とお菓子の教室を主催している講師を招き、メニューマンネリ打破のポイントについてアドバイスを受けた（8月） ○平成24年以降の活動を取りまとめて、平成29年度地産地消等優良活動表彰の地域振興部門に応募（8月） 中四国農政局長賞の受賞式（12月） <p><対象：直販所「^{まっこと}真心ふあーむらぶ」></p> <ul style="list-style-type: none"> ○運営委員会での情報提供と提案（7月、1月） <ul style="list-style-type: none"> ・販売実績と目標の確認 ・前回総会で活動計画に盛り込んだ8月農家レストランの追加開催について検討 ・総会への提案内容協議 														

(前頁から続き)	<ul style="list-style-type: none"> ○店舗職員から改善点などの意見聞き取り (10月) ○総会での情報提供と提案 (2月) <ul style="list-style-type: none"> ・高知市内の直販所の販売実績増加率ランキング1位の情報提供 ・販売額1億円を目指して、イトインコーナーの設置提案
----------	---



平成30年度の主な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○加工組織なるクラブの販売額がアップし、所得向上につながる。 ○直販所全体の販売額がアップし発展につながる。 									
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">項目</th> <th style="width: 30%;">現状 (H29)</th> <th style="width: 30%;">目標 (H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工組織「なるクラブ」販売額</td> <td>3,208万円</td> <td>3,350万円 (H31目標3,500万円)</td> </tr> <tr> <td>直販所「^{まっこと}真心ふあーむらぶ」販売額</td> <td>8,536万円</td> <td>8,750万円 (H31目標9,000万円)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H31の目標額を上方修正した。</p>	項目	現状 (H29)	目標 (H30)	加工組織「なるクラブ」販売額	3,208万円	3,350万円 (H31目標3,500万円)	直販所「 ^{まっこと} 真心ふあーむらぶ」販売額	8,536万円	8,750万円 (H31目標9,000万円)
項目	現状 (H29)	目標 (H30)								
加工組織「なるクラブ」販売額	3,208万円	3,350万円 (H31目標3,500万円)								
直販所「 ^{まっこと} 真心ふあーむらぶ」販売額	8,536万円	8,750万円 (H31目標9,000万円)								

平成30年度の主要な活動内容と実施時期	<p><対象：加工組織「なるクラブ」></p> <ul style="list-style-type: none"> ○チーム会の開催 (隔月、6回) <ul style="list-style-type: none"> ・販売実績と目標の確認 (毎回) ・取り組み内容の進捗管理と評価 (毎回) ・製造計画を立てる (毎回) ・昨年度の産振アドバイザーから受けたアドバイスの振り返り (5月) ・1年間の取り組みのまとめと評価と次年度活動計画の検討 (3月) <p><対象：直販所「^{まっこと}真心ふあーむらぶ」></p> <ul style="list-style-type: none"> ○運営委員会での情報提供と提案 (7月、1月) <ul style="list-style-type: none"> ・販売実績と目標の確認 ・前回総会で提案したイトインコーナー設置について検討 ・改善取り組み内容の進行管理と評価、総会での報告内容検討 ○店舗職員から改善点などの意見聞き取り (10月) ○総会での報告と提案 (2月)
---------------------	---

所内体制	6次産業化担当1名、地域営農担当チーフ1名 合計2名
連携推進体制の整備	<p>チーム会の結成</p> <p>「なるクラブ」のクラブ員、JA高知市生活課、高知県産業振興推進部高知市地域本部の地域支援企画員、普及所をチーム員として、加工施設の改修後から隔月でチーム会を開催している</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

平成30年度普及活動外部評価会
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

(○評価会で発言、●評価用紙に記載)

評価項目		評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制	・課内(所内)の分担	●役割分担ができています。 ●たくさん目標を持って取り組んでおり、人員が足りてないと思う。 伴走型の指導には普及指導員の増員が求められる。
	・活動の進捗よく管理の体制	●所内、関係機関とのチーム会など定期的実施できている。 ●全員が情報共有して問題解決に当たる姿勢はすばらしい。
	・普及指導員の資質向上の取組	●新任職員の教育について、OJTを活用してうまく取り組んでいる。 ●自己研鑽している姿が見える。 ●職員に対する経営指導の研修もできている。
普及指導活動の計画	・普及課題の設定	○環境制御技術はキュウリ以外では実績が出てない。 →高糖度トマトでの成果は、戸数が少なくまだ明確に出てない。 ●環境制御技術導入の目標達成率が低いと思われる。この設定で良いのか、普及に問題がなかったのか見直しが必要。
	・対象の設定	●普及指導員と対象者が互いに刺激しあいながら活動し関係性が良い。
	・関係機関との連携	●地域が一体となって計画に取り組んでいる。 ●JAとの連携もしっかり行っている。 ●産業振興アドバイザーをうまく活用して成果につなげた。
	・目標設定	○直販所の販売額1億円と具体的に設定しており、目標がわかりやすい ●目標の母体数が書かれておらず、適正か判断しにくい。
普及指導活動の成果	・活動の経過	○普及指導員のPOSデータの活用、細やかな資料作りなど見せ方が上手。 70歳代の農家をデータで動かした。高齢者に対する手法が良かった。 ○積極的に向いて農家に寄り添う活動が、所得や活力向上につながった。 ●農家ができてない業務を担うなど工夫し、対象者をやる気にさせた。
	・実績(活動の結果)	○普及指導員の情報分析や指導がうまく伝わって、深い人間関係が出来上がって成果が上がった事例。
	・成果(目標達成状況)	○労働時間の短縮に工夫した点は?→対象者だけで話し合う場を作った。 ○商品のマンネリ化防止より「そこでなければならぬ商品」と思われる定番消費の開発が重要
	・結果の周知	
外部評価、総合所見等		
●様々な取り組みをしているが、課題に対する取組の紐付が伝わってこなかった。プレゼンを工夫することで取組の意義が伝わる。		
●対象者とのコミュニケーションがとれ、連携した活動ができ成果が出ている。		